

わが

美しい自然が響き合い 交流とふれあいの創出により、未来を拓く

水と緑に囲まれた
美しいまち

平成17年3月に鷹巣町・合川町・森吉町・阿仁町の4町が合併して誕生した北秋田市は、秋田県北部中央に位置し、森吉山県立自然公園などの優れた自然景観や山岳溪



綴子神社例大祭

流に恵まれた豊かな日本の原風景の残る地域です。秋田県全体の約1割を占める1152.5km²という広大な面積を有しており、日本三大美林で知られる秋田杉などの山林比率が高く、主な可住地は盆地内の平地に限られています。県都秋田市から北東へ約80kmで、大館市・鹿角市・仙北市・能代市という県内主要都市に隣接し、道路網や公共交通機関が縦横に整備され、東西に国道7号とJ.R奥羽本線、南北には本市鷹巣と仙北市角館を結ぶ秋田内陸縦貫鉄道が整備されているほか、平成10年開港の県内第2の空港である大館能代空港により、地域生活経済圏が飛躍的に拡大してきています。

と米代川支流である阿仁川や小阿仁川などの河川の流域に点在しており、冬季は低温で山間部は積雪量が多いため一部地域は特別豪雪地帯に指定されています。

また、700年の歴史を持ち、ギネス認定でもある「世界一の綴子大太鼓」や国の重要無形文化財である「根子番楽」、熊の狩猟で知られる「マタギ」などさまざまな伝統文化が地域に伝えられています。

「森吉山」の魅力を 全国へ発信

花の百名山であり、市のシンボルでもある森吉山には、ブナ林とアオモリトドマツの原生林が広がり、春から初秋にかけては約300種類の高山植物が、秋には色鮮やかな紅葉が、そして冬には阿仁スキー場でのウィンタースポーツや

本市では、県との協働による「まると森吉山観光振興プロジェクト」に取り組んでおり、ゴンドラ山頂駅付近へのビジターセンター建設をはじめとする環境拠点の整備やブランド化によるイメージアップを図ることで、その魅力を全国に発信し、「いつでも」「だれでも」楽しめる滞留型観光の拠点化づくりによる誘客増を目指しております。

「バター餅」どぶろく」で 地域を元気に

テレビ番組での放送をきっかけに、全国的な認知度が高まったバター餅は、昔から子どもたちのおやつとして各家庭で作られていたものですが、そうした家庭の味自慢をしようと、バター餅をもじった「B.M.ー1グランプリ」を毎年開催しており、伝統的な味や新たな

味の発見による地域おこしに取り組んでおります。そして、商品化に向けて「日本バター餅協会」を設立し、「北あきたバター餅」を商標登録することで商品のPRに努めているほか、首都圏や関西圏の百貨店などのイベントへの出展を行うことで、バター餅発祥の地としてさらなる知名度アップを目指しているところであります。

また、旧阿仁町地域を対象としていた「マタギどぶろく特区」による地域づくりを市全体で盛り上げていこうと、平成25年11月に特区の対象を市全域へと拡大いたしました。本年1月には「第9回全国ど



平成25年5月1日に開催された「第2回BM-1グランプリ」

ぶろく研究大会in北秋田」を開催し、全国から105銘柄が出品され、多くの方に参加していただいたほか、市議会でも議会の会合での乾杯をどぶろくで行うことを決議するなど盛り上がりも広がりを見せてきております。

今後ともこうした地域の特産品を発掘し、光を当てていくことで、まちおこしにつなげてまいります。

生まれ変わった阿仁熊牧場

「マタギ文化」を色濃く残した阿仁打当地区にある阿仁熊牧場では、平成24年の秋田八幡平クマ牧場の悲惨な事故により残されたヒグマを引き受けるための園舎改修工事を進めており、夏ごろにはリニューアルオープンを予定しております。

ヒグマとツキノワグマを同じ場所で見学できる全国的にも貴重な場所として、観光施設のみならず、熊の生態や命の大切さを学ぶ研修施設としても多くの方に活用してもらえるように整備してまいります。

中心市街地の活性化に向けて

本市の最重要課題でもある中心

市街地のにぎわい復活のため、郊外に移転した総合病院の跡地を活用して、「(仮称)北秋田市生涯学習交流施設」の建設を目指しております。

この施設は、公民館機能を有しながらも「憩い」「交流」「にぎわい」をコンセプトに、地域における生涯学習の拠点として市民がいつでも気軽に利用できる中心市街地の活力とにぎわいの創造の核として期待をしております。

プロフィール

- ◆ 面積 1152.5km²
- ◆ 人口 3万5360人
- ◆ 世帯数 1万4380世帯

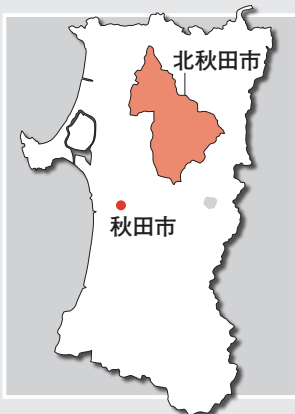
〔将来都市像〕「自然」「ひと」が調和し活気とぬくもりのある交流都市

〔まちの特徴〕自然・人・地域がはぐくむ豊かな心が響き合い、空港とやさしさで未来を創造するまち

〔市町村合併〕平成17年3月22日、旧鷹巣町、旧合川町、旧森吉町、旧阿仁町が対等合併



北秋田市長
津谷永光



〔特産品〕北あきたバター餅、秋田八丈、山刀(ながさ)、比内地鶏、鮎の塩焼き、山の芋、きのこ、山菜、どぶろく

〔観光〕森吉山、阿仁熊牧場、大太鼓の館、浜辺の歌音楽館、伊勢堂岱遺跡、桃洞滝、安の滝(日本の滝百選)、太平湖、阿仁異人館

〔イベント〕根子番衆、猿倉人形芝居、綴子神社例大祭、北秋田市米代川花火大会、阿仁前田獅子踊り、北緯40°秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン

最後に

平成26年度は旧4町が合併してから10周年の年になり、市民歌もようやく完成披露となります。今一度、北秋田市誕生時の市民一丸となった熱い思いを思い起こして、超少年高齢化社会に即した、これまでの概念にとられない行政サービスとの在り方を、市民の皆さまとともにつくり上げてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

前橋市の将来像は「前橋らしく」

忘れた前橋の宝を磨き、新しい価値を創造し、全国に発信する

「北関東の知名度不足の県都」「県庁所在地、地価最下位」などのレッテルを張られた前橋市の市長になって丸2年。新しい価値の創造へ挑んできました。全国の行政関係者に見ていただける絶好の機会ですので、計画や取り組み、宣伝したいことなどを素直に書きたいと思います。

もちろん、前橋市は素晴らしい都市です。しかしその素晴らしさを忘れてしまっているようです。そこで私は市民に「眠っている宝を磨こう！」と呼び掛けました。たくさんさんの宝を見つけて、その一つ一つの宝を磨き、付加価値を高め、そして発信をしていこうと取り組んでおります。それらの具体例を以

下に紹介いたします。

自助を発揮する民力

充実した自治会活動や、日本有数の比率である地域づくりやNPOの団体数は本市の財産です。もともとやる気のある市民にもっと活動していただけるような政策を展開し、住民税の1%を新たに自治会活動に配分し自主的な活動を拡大していただき、市役所の役割を市民に任せたい分、本来の業務に集中することを心掛けています。

質と量が充実した医療環境とさまざまな子育て環境

大型病院数や医療関係者人口も多く、口腔（くわう）条例や歯科専門家の市職員採用など、医師会との連携の強化を進めています。このほか、がん重粒子線治療施設を有する群

馬大学医学部附属病院のある本市は、内閣府が指定する「群馬がん治療技術地域活性化総合特区」の中心の都市であり、さらに、本市が提唱する「前橋ICTしるくプロジェクト」が総務省のICT街づくり推進事業に採択されるなど、母子健康など市民のライフログの電子化に向かっています。

※15歳までの医療費無料化やがん検診の完全無料実施は従前から実施中です

歴史文化の多様性

平成25年に「歴史遺産活用委員会」を設置しました。同委員会では、レンガ・シルク遺産、剣聖・剣豪などのカテゴリで10のプロジェクトチームを結成し、歴史遺産と観光・産業・地域づくりなどを結びつける「文化の六次産業化」を通じて、都市ブランドの向上を目的と

した取り組みを進めていきます。

このような中、平成27年は群馬県の恩人といえる初代群馬県令がNHK大河ドラマ「花燃ゆ」にも取り上げられます。今後も萩市や防府市との連携を進めていくほか、前橋市内に歴史景観を復活させていく予定です。

また、古墳時代から中世の松平、酒井侯、維新の殖産興業の前橋シルクの経済人や、詩人萩原朔太郎を顕彰しているほか、前橋空襲からの復興のミュージカルを市民参加での上演を現在計画中です。さらに、平成27年には当地の剣聖上泉伊勢守を記念し、全国剣豪サミットの開催を予定しております。

充実したスポーツ施設

施設の充実も宝です。J2ザスパクサツ群馬のホームタウンであり、国際交流や全日本ユースクラブ選手権U18を続けてきた「正田醤油スタジアム群馬」や柔道、トランポリン、平成11年世界室内陸上を

開催した「グリーンドーム前橋」。これらの競技施設に加え、関東大会や日本選手権への開催費補助制度でスポーツ誘客を拡大させ、平成28年世界ソフトボール選手権の大会招致や、平成31年ラグビーワールドカップ、そして平成32年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ受け入れへの取り組みを進めています。

また、本市は自転車の街でもあり、秋の自転車イベント「まえばし赤城山ヒルクライム大会」は毎年3000人を超える選手が参加します。それに加え、シクロクロスの実施やクリテリウムの企画・検討のため、本年から「スポーツコミッション」を設置し、新規イベントの実施を進めるほか、アウトドアのイベントも充実させ、赤城山に新しいスポーツ観光の形を実現します。

物流拠点性や生産性が高く、地震に強い再生エネルギーの宝庫

前橋市は東京から100km圏内の好立地であることに加え、関東自動車道、北関東自動車道、上武国道が通り、国道17号と国道50号が交差する、アクセス性にも恵まれた

物流の拠点です。まさに太平洋と日本海の間にあるともいえます。

また、全国13位の農業生産都市であることに加え、豊富で上質な地下水もあります。さらに、災害に強く、文献上の地震発生の事実はありません。こうした環境を守り、次の世代へと引き継いでいくため、近年、メガソーラー発電や小水力発電施設の設置を推進してきました。

このような中、本年は、赤城山の標高差を生かした水力発電の開発や、間伐材を利用したバイオマス発電、ペレットストーブの普及などにも取り組み、「エネルギー創造都市」への進化を目指します。

なお、今までの取り組みが評価され、2年間で物流や生産の需要により前橋市の工業用地40haが完売しました。これからも新しい用地開発に取り組んでいきます。

街なかのシャッターを新しい価値で市民と共に開く

平成25年、中心市街地に新たな芸術文化の拠点となる「アーツ前橋」のオープンをきっかけに、街なかの空き店舗を芸術家やクリエイターたちが、アトリエやコ・ワーキングス

ペースとして活用し始めました。

また、市内14の大学・専門学校が参画する「やる気の木プロジェクト」を発足し、学生による自由で斬新な発想のもと、多くの企画・イベントが実施されるようになりました。さらには、中心市街地にかかわる人々が長く空いていたビルを改装し、低廉な家賃と地域活動をワンセットにした学生シェアハウスとしてオープンしました。

ほかに、「税金だけで事業を行

プロフィール

- ◆ 面積 311.64km²
- ◆ 人口 34万624人
- ◆ 世帯数 14万1224世帯

- 〔将来都市像〕生命都市いきいき前橋
- 〔まちの特徴〕萩原朔太郎生誕の地。赤城山の豊かな自然と、情緒あふれる広瀬川が象徴的な「水と緑と詩のまち」
- 〔市町村合併〕平成16年12月5日、大胡町、宮城村、粕川村と合併。平成21年5月5日、富士見村と合併



前橋市長
山本 龍



- 〔特産品〕「赤城の恵」認証品、豚肉、きゅうり、大豆、ばら、焼きまんじゅう、まえばし ton ton 汁
- 〔観光〕るなばあく、臨江閣、赤城南面千本桜、大胡グリーンふらわー牧場、ばら園、赤城大沼・覚満淵
- 〔イベント〕前橋まつり、前橋七夕まつり、前橋花火大会、前橋初市まつり、まえばし赤城山ヒルクライム、前橋・渋川シテイマラソン

う時代は終わった」と宣言し、常に民間企業のCSR（社会貢献）活動や寄附を事業の原資にするように心掛けています。これにより、不思議と市民や法人の善意による事業が拡大しております。

このように、本市では今、市民や事業者との共創を通じた新しいまちづくりの仕組み、新しい価値が続々と生まれつつあります。「暮らしの都」前橋。これからの挑戦にぜひ注目ください。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

日本の真ん中から情報発信 日本一しあわせなまちを目指して

活力ある産業都市

関市は、岐阜県のほぼ中央部、清流長良川の中流域に位置し、日本の人口重心地を持ち、文字通り日本の真ん中にあります。平成17年の市町村合併により市域は大きく広がり、地形はV字型となつて



関鍛冶伝承館で一般に公開される「古式日本刀鍛錬」

あたかも鳥が翼を広げて飛び立つ姿を連想させます。また高速交通道路網にも恵まれており東海北陸自動車道と東海環状自動車道の結節点という地の利を生かして自動車関連産業や航空宇宙産業などの優良企業が進出し、地場産業の刃物産業とともに活力ある産業都市として飛躍し続けています。

関市の魅力を全国で紹介

本市は「刃物のまち」としてその名を全国に知られています。その歴史は古く鎌倉時代までさかのぼり、刀祖・元重が関へ移り住み、刀鍛冶を始めたのがきっかけとされています。室町時代には多くの刀匠が関の地に集まり、最盛期には「関の孫六」として名高い兼元や兼定などの名刀匠を輩出し、刀の一大産地として発展を遂げました。

そして、その卓越した技術は現在の刃物産業に受け継がれ、ドイツのゾーリンゲンと並ぶ世界的な刃物産地となっています。

毎年10月の体育の日の前の土・日曜日には「刃物まつり」が開催され、本町通りをメイン会場とする刃物大販売市をはじめ、古式日本刀鍛錬の公開や刀剣展、アウトドアズナイフショーなどが行われます。今年の「第47回刃物まつり」は、10月11日・12日に開催されます。

市内を流れる清流長良川、小瀬の里では、素朴な情緒で見る者の心をつつ「小瀬鵜飼」が行われます。この「小瀬鵜飼」は、1000有余年の歴史がある伝統的な古代漁法で、現在も宮内庁式部職の鵜匠3人が宮中の御用を続けるとともに、伝統的な漁法を守り続けています。小瀬鵜飼の開催期間は、毎年5月

11日から10月15日です。

本市には、ほかのまちには真似のできない素晴らしい魅力がいっぱいあります。伝統と技術に裏付けされた刃物産業、古式ゆかしい歴史を秘めた小瀬鵜飼、今でも多くのファンを魅了する円空、かけがえない豊かな自然とその恵み、そして温かな人々の絆、そうした数々の魅力を広くアピールするため「シティプロモーション」という考えを取り入れ、効果的で効率のよい情報発信を行ってまいります。

刃物の聖地 刃物ミュージアム回廊

市内の中心地には、関鍛冶の守護神を祀る「春日神社」、刀鍛冶の伝統を伝える「関鍛冶伝承館」、カミソリの文化と歴史を伝える博物館「カミソリ文化伝承館・フェザーミュージアム」、「岐阜県刃物会館」などが集積し、観光客に人気のスポットとなっています。このエリアを自然と文化を楽しみながら散策

できる「刃物の聖地」とした回廊として整備を進めています。そして、回廊の一部である関川沿いでは、このほど民間による桜の植栽が行われました。将来、満開の桜並木が周辺の施設と同様に重要な観光資源となることが期待されます。

「将来の地域社会の姿」 「地域委員会」

自立した地域社会の実現に向け、本市では「地域委員会」の設置に取り組んでいます。地域には住民の安全・安心の確保、生活の利便性の向上、美しい自然環境や町並みの保全、高齢者や障がいのある方への支援、子育て支援、青少年健全育成、産業の活性化、祭りや地域文化の伝承など、地域住民に広くかかわる公共的な活動がたくさんあります。これらの活動や取り組みを進めているのは、住民自身であったり、行政であったりしていますが、地域住民が行政とともに公共サービスを提供する側に参加することによって、より地域の実態に応じた丁寧なサービスが可能となります。また、本市では、合併によって市域が拡大し、地域が抱える課題が大きく異なってい

ます。行政が同じ制度で公共サービスを提供しても有効に働かないことが多くあります。地域委員会とは、それぞれの地域の特性を生かして住民主体の地域づくりを行う組織です。地域の課題は地域で検討・解決し、将来にわたって持続可能にしていくため、住民の力を最大限に発揮するための組織として、おおむね小学校区を単位にしてさまざまな団体や事業者が参加する形を取っています。市は活動のための交付金や市職員を派遣するなどの支援をしています。

「市民要望の公共交通拠点施設」 「関シテイターミナル」

このほど、本市の新たな玄関口として「関シテイターミナル」が完



新しい関市の玄関口「関シテイターミナル」

成しました。この関シテイターミナルは、美濃加茂市から郡上市までを走る長良川鉄道の関駅に隣接・連結しており、高速バス、都市間バス、コミュニティバスの乗り継ぎ拠点として、大変便利な場所となりました。また施設内には一般車両やタクシーの乗降場、観光案内スペースを備えたバス待合所、トイレなどが整備されています。ター

ミナル隣にはパークアンドライド駐車場（171台）を整備し、より便利に、そして快適にご利用いただけます。また、災害時の緊急避難所として防災資機材備蓄倉庫、飲料水用耐震貯水槽（100t）、マンホール用トイレ、太陽光発電式照明灯などを設置し、防災機能を備えているのが特徴です。

プロフィール

- ◆ 面積 472・84km²
- ◆ 人口 9万1840人
- ◆ 世帯数 3万4101世帯

〔将来都市像〕水と緑の交流文化都市
「ときめき・きらめき・いきいき・せきし」

〔まちの特徴〕刃物・鶴飼・円空、そして豊かな自然に恵まれた日本一の刃物のまち

〔市町村合併〕平成17年2月7日、武儀郡洞戸村、板取村、武芸川町、武儀町、上之保村を編入



関市長
尾関健治



〔特産品〕刃物、円空さとも、キウイフルーツ、つるむらさきうどん、奥美濃古地鶏、ブルーベリー、ゆず、しいたけ

〔観光〕関鍛冶伝承館、濃州関所茶屋、カミソリ文化伝承館・フェザーミュージアム、関市円空館、寺尾千本桜、株杉、吉田観音、関善光寺

〔イベント〕刃物まつり、関まつり、あんどんみこしコンクール、小瀬鶴飼、古式日本刀鍛錬打ち初め式、刃物のまち関シテイマラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

自然と生活の調和がとれた 福の多い津（まち）を目指して

はじめに

旧福岡町と旧津屋崎町とが合併し、新しく「福津市」が誕生してから、10年になるうとしていきます。この福津市という名前には、幸福や多くの人が集まる津（港、場所）という意味が込められています。

海岸一帯と宮地嶽神社周辺の山林は、玄海国定公園に指定され、



全国から多くの参拝客が訪れる「宮地嶽神社」

風光明媚な自然景観を形成しています。

本市には、商売繁盛・交通安全・家内安全の神様として知られ、全国有数の参拝客を数える宮地嶽神社があり、津屋崎・福岡海岸などを中心とした観光レクリエーションの場として、福岡・北九州両政令市への通勤・通学の利便性を背景とした住宅地域として、さらには、新鮮な農水産物の生鮮食料供給拠点としての広域的な役割も持っています。

**未来へつなごう 私たちの宝
「宗像・沖ノ島と関連遺産群」
を世界遺産に**

本市では、福岡県や宗像市と同様に「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産への登録活動を進めており、現在ユネスコの世界遺産国内暫定リストに記載されています。

この遺産群は、古代、東アジアとの交流の成就、航海の安全を願う国家的祭祀が行われた沖ノ島と、

その祭祀にかかわり宗像地域と玄界灘の海上交通路を支配する、古代の有力豪族「胸形君」に関連する新原・奴山古墳群などから構成されます。学術的にも重要なものであり、これからもさまざまな課題を解決しながら、世界遺産登録に向けた活動を進めていきたいと考えています。

この新原・奴山古墳群は津屋崎古墳群の中でも最も古墳が密集している古墳群で、東西約800mの台地上に前方後円墳5基、円墳35基、方墳1基の古墳が分布しています。調査された古墳からは、鉄製の鎧や、鉄をつくる道具、飾りが付けられた土器などの貴重な資料が出土しています。本市では、

この古墳群を身近な歴史教材として活用するため、古墳公園としての整備を進めることにしています。

「食の街道」を目指す海岸線

本市には全長22kmに及ぶ豊かな自然が残された海岸線があります。このうち福岡海岸は、もともと海水浴場として栄えてきましたが、近年マリンスポーツのメッカとなり、神奈川県湘南海岸になぞらえて「福岡の湘南」「九州の湘南」と呼ばれるようになりました。サーフィンやウインドサーフィン、シーカヤックなどを扱うサーフショップも増え、若者向けの喫茶店やイタリア料理店も人気のスポットとなっています。

夏の海水浴を楽しむ方以外にも、白砂青松の海岸線の美しさは福津を訪れる方に人気があります。その中でも、夕陽の沈むころの「黄金に輝く海」はリピーターが後を絶ちません。

海の香りを感じつつ大きく深呼吸

吸し、潮騒を聞きながら、さらには心地よい潮風を浴びながら、ゆったりした気分で沈みゆく夕陽を見るのは、ロマンティックというべき最高のぜいたくだと思います。

福岡海岸以外にも、宮地・津屋崎・恋の浦・白石浜・勝浦海岸と見る海岸によって風景や風情も異なり、さまざまな楽しみ方を満喫できます。

また、市内で取れる新鮮豊富な魚介類や野菜などを使った各店自慢の料理を多くの方々に提供できるようになごわいの空間づくりを進め、「食の街道」としてPRしていく予定です。

「郷づくり」と「郷育」

本市では、市域をおおむね小学校区の「神興」「神興東」「上西郷」「勝浦」「津屋崎」「宮司」「福岡」「福岡南」の8つに分け、地域主導型の地域づくりを目指しています。

「福祉」「子育て支援」「防災・防犯」「環境」の必須テーマに自分たちの課題を挙げ、その解決策やスケジュールを考える「地域づくり計画」を作成。自分たちの地域の特性を生かし、独自の工夫を加えながら、市民と市職員が協力して、自

分たちの「郷」を愛する魅力的なまちづくりを進めます。

また、合併以前の福岡町時代から「郷育」にも取り組んでいます。「郷」によって育てられ、皆で「郷」を育てていくものであり、生涯学習の一環で「郷育カレッジ」を開校しています。小学生以上で市内に在住、通勤、通学している人なら誰でも学ぶことができる本市ならではの学習システムです。開催される講座は、地域にかかわりが深い「健康福祉」や「子育て」「ふるさと」「生きがい」「環境」「国際交流」など多岐にわたり、1講座につき1単位が習得でき、通帳型の郷育手帳に記載されます。単位の修得数により、学位も認定されます。ただし、単位といってもいつまで取らなければならぬという決まりもなく、留年もなければ、卒業もありません。ゆつくり自分のペースで学び、ここで得た知識や経験をいずれば地域社会に生かせればというもので、いずれ教わる側から教える側になって、地域に還元していこうというものです。

おわりに

合併10周年を迎える本年度は、

市制10周年を祝して多くの事業を市民や市職員が手を携えて実施します。

今住んでいる人たちが、生涯にわたって住み続けたい。そして、市外に住んでいる人も福津市に「住んでみたい」「行ってみたい」と思っていただけのような魅力あふれるまちを目指して、まちづくりを進めたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 52・70 km²
- ◆ 人口 5万8137人
- ◆ 世帯数 2万3701世帯

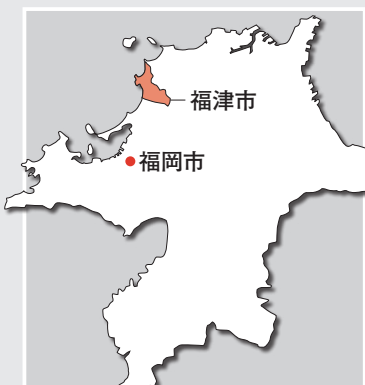
〔将来都市像〕「歴史と明日」「自然と賑わい」「地域と拠点」ふたつが織りなすまちづくり

〔まちの特徴〕県の北部に位置。観光レクリエーションの場として、また福岡・北九州市のベッドタウンとして急速に都市化が進む

〔市町村合併〕平成17年1月24日 福



福津市長
小山達生



間町と津屋崎町

〔特産品〕津屋崎人形、マルティグラス、カリフラワー、松ヶ枝餅、クリームスイカ、真鯛

〔観光〕宮地嶽神社、海水浴場、津屋崎千軒の町並み、新原・奴山古墳群
〔イベント〕津屋崎祇園山笠、サマーナイトインふくつ、玉せり、実業団女子駅伝西日本大会、福津市成人祝賀駅伝競走大会、福津市納涼花火大会



江戸時代から続く伝統行事「津屋崎祇園山笠」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。